

01 感染症の影響から市民を守り、社会経済活動の力強い回復を支えるまちづくり

引き続き新型コロナウイルス感染症への対策を確実に実施するとともに、事業の継続や再構築、新しい社会経済活動の支援を進めていきます。

新型コロナウイルス感染症の対策を継続

相談や検査などの体制を維持
143億3,800万円

新型コロナウイルス感染症に関する相談窓口を引き続き運営。PCR検査の実施や、感染した方の医療機関や宿泊療養施設への搬送、自宅療養者への支援など、継続して感染症対策に取り組みます。

ワクチンの接種 167億7,600万円

希望する全ての市民が、9月末までワクチン接種を受けられる体制を確保します。

医療提供体制の確保 33億1,500万円

必要な医療を確実に提供するため、感染状況に応じて入院待機ステーションを運営するほか、保健所の医療対策室の体制を維持します。

新しい社会経済活動の支援

公共交通機関の利用促進 17億4,800万円 新規

路線バスや路面電車、タクシーなどの交通機関をより多くの方に利用してもらうための新たな取り組みを支援します。



百貨店や商店街などを支援
10億2,100万円 新規

都心商店街に加盟する百貨店などの大型商業施設や商店街が実施する、商品券や値引き券の発行といった販売促進キャンペーンなどを支援します。

文化芸術活動支援
6億5,200万円 新規・拡充

文化芸術活動の再開を支援するため、施設利用料の補助を継続。また、芸術の森美術館などの観覧料の割引や、低料金のコンサートなどを実施します。

事業の継続や再構築をサポート

中小企業への融資
1,019億6,100万円 拡充

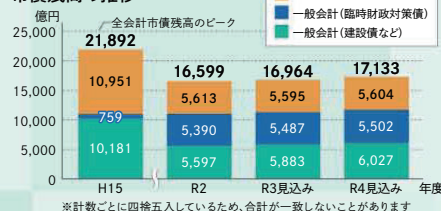
新型コロナウイルス感染症の影響を受けている中小企業のための融資制度を継続。また、新たな分野への進出や業種転換などの取り組みを対象とした融資を拡充します。



市債の状況

市の借金である市債の残高は、臨時財政対策債の増加などによって、前年度よりも増える見込みです。引き続き、将来に過度な負担を残さないよう、事業費の精査や効率的な事業の執行などにより、市債残高の抑制に努めていきます。

市債残高の推移



令和4年度 札幌の予算とまちづくり

4月から市がお金をどう使うのかをまとめた、令和4年度の予算が完成しました。この特集では、市の予算の規模や具体的な取り組みを通して、どのようにまちづくりを進めていくのかを見ていきます。

詳細 財政課 ☎211-2212

予算とは、市の1年間の収入と支出の計画を示したものです

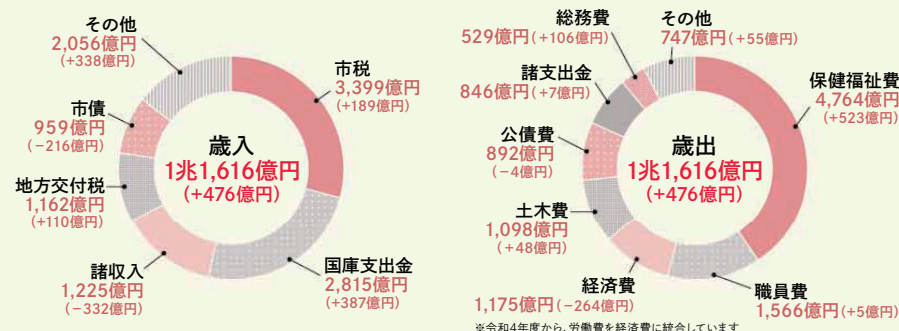
収入 (歳入)	皆さんからの税金、国や北海道から交付されるお金、公共施設の利用料 など	支出 (歳出)	福祉や教育、道路や公園の整備、除排雪にかかる費用 など
------------	-------------------------------------	------------	-----------------------------

市では、予算を3種類に分けて管理しています

一般会計 1兆1,616億円	特別会計 3,746億円	企業会計 2,688億円
福祉や教育など、基本的な事業を管理する会計	国民健康保険や介護保険など、一般会計と区別した管理が必要な会計	地下鉄や水道など、利用料金の収入で運営している事業の会計

一般会計の内訳を紹介します

※()内は前年度比。計数ごとに四捨五入しているため、合計が一致しないことがあります



・新型コロナウイルスワクチン接種関係費の増加などにより、国庫支出金が387億円増加
・本来国が交付するべき地方交付税を市が一時的に肩代わりする臨時財政対策債の発行額の減少などにより、市債が216億円減少 など

・新型コロナウイルス感染症予防費の増加などにより、保健福祉費が523億円増加
・新型コロナウイルス感染症の影響を受けた中小企業への融資資金の減少などにより、経済費が264億円減少 など

次のページから、主な取り組みを3つの柱に沿って紹介していきます

魅力と活力にあふれ、 新しい時代に向かって成長を続けるまちづくり

03

街のリニューアルやデジタル化の推進、環境に優しいエネルギーの活用などを通して、将来にわたって魅力と活力にあふれる街を目指します。

街の魅力を高めるリニューアル

札幌駅交流拠点の整備
13億8,900万円 **【拡充】**

2030年度末を予定している北海道新幹線の札幌開業を見据え、札幌駅周辺の再開発への補助や、新幹線札幌駅の東改札口の設置などを進めます。

整備イメージ(今後の協議・検討により変更となる場合あり)



▲2028年度に工事が終わる予定の北4西3地区

都心の再開発事業を支援 58億5,300万円

民間ビルの建築費用などを補助し、再開発を促進。札幌駅に近い北8西1地区には、来年12月に、住居や店舗などが入る複合施設のほか、地下鉄東豊線さっぽろ駅への地下通路を整備し、季節を問わず快適な歩行空間をつくります。

札幌ドームの活用を促進 10億400万円

最大約53,000人収容のドームを20,000人規模のイベントにも対応できるよう改修し、活用の幅を広げます。

スタートアップ支援やデジタル化の推進

ITの活用や起業支援
2億1,600万円 **【拡充】**

中小企業のデジタル化のほか、女性や外国人の起業支援などを推進します。

スマートシティ※の推進
1,400万円 **【新規】**

官民データの取引市場の新設によりデータ流通を活性化させ、多様なサービスの創出を後押しする取り組みなどを行います。

※人口減少社会に対応するため、デジタル技術を活用し、サービスを最適化することで市民の利便性の向上を目指す都市



オリンピック・パラリンピックへの取り組み

冬季オリンピック・パラリンピックの招致 4億2,300万円

2030年大会の招致に向けて大会概要案を更新。皆さんと対話するワークショップなどを実施し、招致活動を進めます。

コロナ後の暮らしを見据え、さらに成長していく街へ

市では、感染症対策を引き続き行いながら、経済を力強く回復させるためのさまざまな取り組みを進めています。誰もが安心して生活でき、魅力と活力にあふれる街を、力を合わせてつくっていきましょう。

子どもを生み育てやすく、 誰もが安心して暮らせる、やさしいまちづくり

02



子育ての環境整備や障がいのある方への支援などを行い、市民一人一人が安心して地域で生活するためのまちづくりを推進します。

子どもを生み育てやすい環境づくり

保育士などの処遇改善に向けた取り組み
10億4,900万円 **【新規】**

保育や幼児教育などの現場で働く方の処遇改善のため、各施設への助成を行います。

妊娠に関する相談支援体制を強化
4,400万円 **【拡充】**

妊娠中や産後など家庭への訪問などを通して産後うつなどの予防を図るほか、妊娠に関する専用相談窓口の開設を検討します。



ヤングケアラーへの支援を推進
600万円 **【新規】**

本来大人が担うと想定されている、家事や家族の世話などを日常的に行う子どもである「ヤングケアラー」を早期に見つけ、必要な支援につなげるための取り組みを進めます。

町内会の加入促進と負担軽減

町内会の活動を支援 1億7,200万円 **【拡充】**

加入を促進するイベントの実施や、デジタル活用のための環境整備費用の助成、ごみステーション管理器材の購入費助成の拡充などを行います。

雪と共存した暮らし

冬の暮らしを支える除雪 215億7,800万円

道路の除排雪を実施するほか、ICT(情報通信技術)などを活用し、現在2人で行っている除雪車での作業を1人で行えるようにするなど、将来働き手が減っても除雪体制を維持していくための取り組みを進めます。



学び・育ちの環境を整備

義務教育学校の開校準備 4,500万円 **【新規】**

一つの学校の中で小中学校の9年間の学びを行う義務教育学校(小中一貫校)の開校に向けた準備を行います。来年4月には、市内で初となる(仮称)福移義務教育学校が開校予定です。



誰もが安全で暮らしやすい街へ

客引き行為などの防止への取り組み
5,300万円 **【拡充】**

札幌市客引き行為等の防止に関する条例に基づき、指導員が禁止区域を見回り、客引き行為への指導などを実施します。

重度障がいがある方などの就労を支援
8,600万円 **【新規】**

重度の障がいがある方などが、ヘルパー利用などの障害福祉サービスと同等のサービスを、通勤時や就業中にも受けられるよう支援します(上半期にモデル実施、10月ごろから本格実施の予定)。



令和3年度の除雪費

集約的な降雪のあった昨年度は、当初の予算は214億円でしたが、補正予算などにより予算総額は306億円になりました。なお、今冬の状況を踏まえて、大雪時の対応について引き続き検討を進めていきます。